

Newsletter

Hokkaido Aikido Federation, No.9, Summer 2026

令和7年度・中学校武道授業特化型地域社会武道指導者研修会

北都真武会 本間 雅富

2026年2月14、15日の2日間、当別町総合体育館で行われました。当日は天候にも恵まれ、2日で30名が参加しました。講師には、本部指導員の日野皓正師範と中村仁美指導員をお招きしました。日本武道協議会発刊の少年少女武道書を元に日野師範の指導で座学から始まり、畳の上では礼法、構え、体捌き、受身等の教え方をご指導頂きました。中学生の指導方法のみならず、児童、生徒、初心者に対しての共通の指導方法となりました。受身は隅落し等の体術を例に色々な状況での受身の取り方を指導頂きました。中村指導員には、合気道の体力作り、体捌きや受身をゲーム感覚でご指導頂きました。飽きがこない様、ゲーム感覚で楽しませるのが良いとのこと。講習会に集まった方々は高齢の方も多かったのですが、和やかな雰囲気にもまれて、楽しい時間を過ごしました。人を教えるには自分のスキルアップが必要とのこと。後半は日野師範の指導で開祖の著書を元に体術を稽古、大変勉強になりました。最後は各道場の参加者とディスカッション。各道場の方々の経験を元に意見交換が行われ有意義に過ごしました。このような機会を与えて頂き深く感謝致します。今後も続けて頂きたいと思えます。



武田惣角と滝川の弟子・佐々木兵庫

滝川町武道黎明期：「鬼の冠 武田惣角」と滝川の弟子「佐々木兵庫」「山本角義」

合気道滝川道場 目黒 久雄

「武田惣角」と聞いてご存じの方ははたしていらっしゃるでしょうか？武道誕生の国ですが、武道人口は多くなく、成り立ちなどを知っている方も多くありません。柔術の祖 武田惣角に至ってはほとんどオタクの世界ですね。武田惣角は会津藩のお留技「大東流合気柔術」の総本部長を名乗り道場を持たず全国を興行あるいは請われて指導して普及を図った大東流合気柔術の中興の祖と言われる偉大な人物です。彼のもとで修業をした者は全国3万人いると言われますが、「合気道」の開祖 植芝盛平もその一人です。その関連はまた後程。

今日の主人公は「佐々木兵庫」滝川町で佐々木薬店を経営し武田惣角を店の2階に招いて2年間修業して大東流教授代理（昭和6年7月5日）をいただいた方です。彼が惣角に担がれている写真は惣角の人物を語るうえで特に有名な写真です。全国を歩いた武田惣角ですが、後半は北海道白滝に居を構え家庭（再婚）を築き北海道から指導に歩きました。若い頃から武者修行に出たり惣角には放浪癖のようなものがあり、家庭人としては褒められた方ではなかったようです。全国を渡り歩いた惣角ですが、最後は滝川町で多くを過ごし弟子二人 佐々木兵庫・山本角義（後に登場）との関係は深く、惣角最後の指導地として認識しています。滝川町（現滝川市）の存在も、もう少し認知されると良いのにとおもいます。



序章

本題主人公の佐々木兵庫氏ですが、惣角に担がれた道着の方がその人です。教授代理を受けた際の記念写真です。惣角は長く指導を受け技術に優れた者には教授代理の資格を授けています。（昭和6年7月5日印可・記念写真）自分は合気道（開祖は植芝盛平）を43歳で始めて24年以上が経ちますが武田惣角の存在と肩担ぎの写真を見たとき、惣角のすごさは理解しつつも、担がれた方はどこの人であろうかと、疑問を持ちながらも調べてもほとんど情報が無く謎のままでした。この写真は「大東流合気柔術」の本の表紙にもなっていますが、道着の人物の顔と足元は省略され、わからずじまいでした。

そんなある日、年配の女性の方からお電話（平成30年秋頃）があり、「自分のおじいさんが武田惣角と稽古をした時の資料がありますが、自分も歳（86）だし、家族のもので興味のある者もないので処分しようと思いましたが目黒さんは合気道だし必要なら差し上げます」と、お電話いただきました。度々地元のローカル新聞に合気道の宣伝を載せていたので電話番号は控えていたそうです。滝川市内の方で尋ねてみると、有名な惣角の写真の現物が目の前に出てきたのには大変驚きました。他にも佐々木兵庫氏の剣道居合道の賞状もあり、当然ですがかなりの年代物です。惣角が出していた技の巻物は残念ながらありませんでしたが、謎だった写真が目の前にある事が自分にとってはまさに青天の霹靂で衝撃的でした。

紹介者の佐々木智子さんは兵庫氏の息子の良一さんへ20歳でお嫁入りしたそうですが、その時は既に惣角はいなかったそうなので、惣角の情報は写真以外には残念ながらありません。当時、すでに薬房を営んで経済的に成功していた兵庫氏が惣角を呼び寄せて店（材木通り）の2階に招き（昭和5年）2年ほど稽古をつけてもらっていたそうです。私見なのですが、惣角に学んでいた門人には薬屋を営んでいた方が多いようで、当時、業界のネットワーク的なものが在ったのかもしれない。

※ 佐々木 兵庫 明治25年5月8日生～昭和39年1月20日没 享年72歳
武田惣角へ入門 昭和5年～昭和17年滝川町で稽古の記述在り。

佐々木兵庫氏は仙台の士族出身で旧姓和賀家三男「和賀兵庫」と言い、先祖は伊達政宗に騙され凄惨な目にあったとされ、その歴史を特集した岩手新聞のコピーが残されています。体の弱かった兵庫氏は薬屋を目指し地元仙台「武者医院」～「樺太日本製紙内医院」～旭川「山本医院」～請われて滝川「児玉医院」を経て猛勉強し資格をとり滝川町（当時）で材木通りにあった福助屋佐々木薬店に婿入りし佐々木兵庫となります。その後、佐々木薬店で財をなし、地元商工会でも活躍、また武道仲間たちと子供たちのために武道場の建立などに尽力され、滝川警察署の剣道指導もされています。その後は残念ながら大東流合気柔術は地元には根付きませんでした。息子良一さんも武田惣角の三男時宗氏（網走中心）とも交流され、剣道居合道は各六段まで取得されています。士族の出でもあり武道に強い関心をお持ちだった方なのだろうと思いました。惣角翁が亡くなる昭和18年頃まで断続的に師弟関係は続いていたと思われ。その後、兵庫氏は昭和25年に高弟だった佐川幸義宗範に入門（58歳時）し後にご子息の良一氏も弟子入りされました。

※ 山本 角義（留吉） 大正3年3月3日生～昭和57年1月30日没
北海道万字炭山生まれ3歳の時、家族で秋田に移住。14歳から料理人の道に入り北海道各地の料亭や旅館にて腕を磨く。

昭和15年頃、佐々木兵庫宅に身を寄せていた武田惣角と知遇を経て惣角の技に感銘を受け入門、当時滝川町の「北海道人造石油株式会社」社員寮の料理人だった山本留吉（最後の弟子・青森で惣角の死に水をとる）は内弟子となり、昭和16年2月に惣角が病に倒れ半身不随になるも、惣角の身の回りのお世話をしながら稽古を続け、大東流と剣術の技術を伝授され昭和17年に教授代理を印可される。惣角は不自由ながらも滝川町で、山本留吉・佐々木兵庫・畑中義信ら指導していた記録（提供：幸道会・野本氏 月間秘伝より）が残っています。山本留吉は惣角から「大東流合気柔

術総主」と名乗れと言われ角義の名をいただきました。後に苫小牧に自分の道場「柔進館」を開く。滝川は武田惣角が晩年に過ごした稽古地と言えるでしょう。全国で3万人の弟子で惣角から教授代理を印可されたものは20数名しかおらず、滝川町では佐々木兵庫・山本角義の2名もおりました。

※ **武田 惣角** 安政6年（1859年）10月10日生～昭和18年4月25日没
会津御池御伊勢宮武田屋敷で武田惣吉（会津藩士宮相撲力士）の次男として生まれる。青森で巡回指導中に客死。享年84歳。

子供のころから武芸事が好きで大東流やその他武道を習い「会津の子天狗」と言われていました。福島之都々古別神社で神職見習いをしていた時初めて保品近恵（ほしなちかのり・西郷頼母）から御式内を習い、その後も保科の元を度々訪ね明治31年、霊山神社（福島県）にいた近恵から御式内の秘奥を会得して同年5月12日、「しるや人 川の流を打てばとて 水に跡ある 物ならなくに」の一首を示され、これにより大東流合気柔術を正式に継承したとされています。その頃から「大東流柔術」として活動し、その後「大東流合気柔術」となり、主に北海道を本拠地に活動し昭和18年（1943年）4月25日青森市「旅館伊藤」方で客死。一緒に共をされた山本角義先生が死に水を取った。

武田惣角は武者修行中、3度の真剣勝負を経験し、1、1876年頃会津、盗賊を相手にする。2、1882年仙台、道路工事にやくざがかかわっていて、その関係の土方やくざ11名に囲まれモッコを被せられた。懐刀で破り、逃げながら相手の刀を奪い3名を斬り絶命する。（小野派一刀流も学んでいる）3、1904年函館。当時ヤクザが圧力をかけ、公正な裁判を妨害することが横行していた。惣角先生は裁判所の要請を受け警備（用心棒）をしているところへ、やくざが白鞘の刀で襲ってきた。2名切り絶命する。当時の世相というか、何れも正当防衛であり不問にされたようである。なんとも豪快すぎる人物ですが、やくざの復讐を恐れてか、とても用心深く、用いていた杖は鉄製で先をとがらせてあったと言う事です。その生涯は「鬼の冠 武田惣角伝」（著者 津本陽）で書籍化されています。

※ 門人には後に「合気道」を起こす植芝盛平がいる。植芝盛平が北海道遠軽の旅館を訪ねた際に出会う。身長150センチに満たない小柄な惣角に全く齒が立たず、その技に感銘を受け弟子入りする。その後、白滝村に招き献身的に師事して大東流の奥義を学び「合気道」創設の礎を築く。20代後半、開拓者として北海道白滝に入植後、武田惣角と出会い、約7年間修業。後に出口王仁三郎との出会いや幾多の経験を積み開眼、合気道となる。

合気道： 植芝盛平が創設、合気道として称することになったのは昭和18年頃と思われる。世界140カ国に普及し、傷つけない愛（和合）の現代武道として知られ、インテリジェンスな海外の人々に人気があります。二代目道主 植芝吉祥丸先生が大学に合気道を普及させ、組織化に成功している。現在は三代目 植芝守央道主、四代目も活躍中。

大東流合気柔術： 滅亡した甲斐武田から会津藩に流れお留技となる。惣角翁が全国で指導したためか、それぞれ先生の流派がありますが、何れも実戦的で秘匿性が高く、最近まで見学不可の道場も多かった。現在は世界40カ国に普及しています。

後 述

今回の原稿は佐々木智子様からの武田惣角・佐々木兵庫の写真その他資料を頂いた事でしたが、暫くぶりにご自宅を訪ねるとすでに家は無く、お隣の娘さんに伺うと3年ほど前にお亡くなりになったという事でした。私くらいの年齢の娘さんにおじいさん（兵庫さん）の思い出を聞いてみましたが、とにかく優しく自分はおじいさんに背負われていた記憶しかないと、おっしゃっていました。武道家ですが、心根の優しい方だったのでしょね。

佐々木兵庫氏について武道雑誌の「月間秘伝」に記事を投稿し2019年月間秘伝6月号に掲載いただいた際に、編集長から山本角義氏の資料もいただき、死に水を取った山本角義も滝川町在住だったことを知りました。地方の修行者が注目される機会は大変珍しく、この様な形で紹介できた事を大変うれしく思っております。個人的な記録ですが、兵庫氏の武道の賞状なども「大日本武徳会長 東條英機」（昭和18年剣道）とか歴史的な価値もありそうですが、大概の個人のもは残される事なく処分されるので、どう引き継ぐものかと腐心しています。大東流に渡すと滝川の価値観がなく、市に寄付しても死蔵品になりそうで不安です。「郷土の武道史」とか写真パネルの展示品になるといいのですがね。滝川の武道史等、無いのですから。

※ 最後に資料提供者の佐々木智子様のご冥福をお祈りいたします。深謝

論評：合気道でのジェンダーギャップ

Gender Gap in Aikido in Hokkaido as a Microcosm of Greater Society at Large

Joslyne Abe, Aikido Hakodate Dojo

The martial art of Aikido has the potential attract more women to the dojo than other martial arts, such as karate or judo. There are no competitions in Aikido, the training is safer than many other martial arts and everyone trains together on the mat; men, women, children of all ages and levels. It is also one of the most accessible martial arts in that training involves deflecting attacks and safe falling practices. Typical Aikido techniques involve two partners, one the attacker and the other, the defender. When men and women are partners, they each take turns being the attacker and defender. If the man is much larger and stronger than his female partner, it would be easy for him to throw her roughly, possibly causing injury. That is where the spirit of Aikido plays its most important role – the stronger partner never uses his/her power to overcome the opponent. Rather he or she moves into a safe position from which the attacker cannot recover, resulting in a peaceful resolution. It would seem that women who are interested in actively moving their bodies and training in a traditional martial art would be drawn to Aikido.

I have been actively involved in my local Aikido dojo for the past 25 years and have earned a 4th dan black belt. I have watched other women also join our dojo and achieve high levels. On the other hand, I have watched many women leave the dojos of Hokkaido for various reasons which may include unsuitable

training time (caring for children, elderly parents), injuries, unwelcoming members, lack of support or no female role models with whom to relate. When women leave a dojo, the dojo loses not only a member, but the input of female opinions and the ability to attract other women to the dojo. A healthy dojo should have a balanced representation of men, women and children of all ages and levels. The teaching staff must be open and aware of the differences of each member and how to treat everyone fairly. A quick glance at the Hokkaido Aikido Federation website shows 26 dojo members and 4 university club associations within the Aikikai network. (Aikikai refers to the largest Aikido association in the world with its main center in Tokyo, Japan.) All contact names are men. Each of the leaders for the regional associations across all of Japan is a man. This lack of representation is harming both Aikido and women's roles in society at large. It is the responsibility of both men and women to rectify this imbalance. What can be done about it?

Current leaders must promote women to top roles and women must be willing to accept such roles. In each dojo, women must eagerly take on teaching responsibilities, and not just children's classes or teaching other women. If they are not offered the role, they need to express their willingness to instruct and welcome leadership roles in their dojo.

The obstacles to gender equality in Aikido cannot be eliminated easily or quickly. A steady approach with clear goals is needed. The reality is that in order to achieve 50 percent exposure on the mats and in dojos, women must be able to join in the leadership. Training time that works for both employed people as well as home caretakers, a balance of training levels in each session, well-qualified and concerned instructors are ways that can make Aikido more attractive to more women, without making it less attractive to men. Typically, dojos with women in leadership roles attract more women to the dojo.

The world in the dojo reflects the world outside the dojo. Women need to step up to responsible positions and men need to support them in their endeavor. Some dojos are already doing that and my current dojo has an almost 50/50 balance of men and women who train together actively. Some other Aikido dojos in Hokkaido support women practitioners. Next, more women Aikidoka should step into leadership roles and represent Aikido in their community.

(和訳) 社会全体の縮図としての北海道における合気道のジェンダーギャップ

合気道函館道場 阿部 ジョスリン

合気道は、空手や柔道などの他の武道と比べて、より多くの女性を道場に惹きつける可能性を持つ武道である。合気道には試合がなく、多くの武道に比べて稽古の安全性が高い。また、年齢や性別、経験の有無に関係なく、男女や子どもが同じ畳の上で共に稽古を行う。攻撃をかわし、安全な受け身を重視する点においても、合気道は非常に取り組みやすい武道の一つである。一般的な合気道の技は二人一組で行われ、一方が攻撃役、もう一方が受け手となる。男女が組む場合には、双方が交代で攻撃と受けを担当する。もし男性が女性よりも大幅に体格や筋力で勝っている場合、乱暴に投げてしまえば怪我を負わせることも容易である。しかし、そのような場面においてこそ、合気

道の精神が最も重要な役割を果たす。すなわち、強い側は決して力で相手を制圧しない。相手が立て直すことのできない安全な位置へと導くことで、争いのない解決を実現するのである。身体を積極的に動かし、伝統的な武道を学びたいと考える女性にとって、合気道は大きな魅力を持つ武道であると言える。

私は過去 25 年間、地元の合気道道場で積極的に稽古を続け、四段位を取得した。その中で、多くの女性が道場に入門し、高い段位を取得していく姿も見てきた。一方で、北海道内の多くの道場から女性が去っていく現実も目の当たりにしてきた。その理由としては、稽古時間が子育てや高齢の親の介護と両立しにくいこと、怪我、道場内の雰囲気や歓迎的でないこと、支援の不足、あるいは共感できる女性のロールモデルがないことなどが考えられる。女性が道場を去ると、道場は単に一人の会員を失うだけでなく、女性ならではの視点や、他の女性を道場に引きつける力も失うことになる。健全な道場とは、年齢や段位を問わず、男女および子どもがバランスよく在籍している状態であるべきである。そのため、指導者は各会員の違いを理解し、すべての人を公平に扱う意識を持つ必要がある。

北海道合気道連盟のウェブサイトを見ると、合気会（合気会とは、東京に本部を置く世界最大の合気道組織である）に登録している道内 26 団体と、大学クラブ 4 団体が掲載されている。しかし、各団体の代表者はすべて男性である。このような女性の代表不在は、合気道そのものだけでなく、社会全体における女性の役割の現状も表わしている。この不均衡を是正する責任は、男性だけでなく女性にもある。では、どのような取り組みが必要なのだろうか。

まず、現指導者は女性も指導的立場に積極的に登用し、女性はその役割を引き受ける意欲を持つ必要がある。各道場において、女性は子どもクラスや女性限定クラスの指導にとどまらず、一般稽古の指導にも積極的に関わるべきである。もし指導の機会が与えられていない場合には、自ら指導への意欲を示し、道場内でのリーダーシップを担う立場を受け入れる姿勢を明確にする必要がある。

合気道におけるジェンダー平等への障壁は、容易に、あるいは短期間で解消できるものではない。そのため、明確な目標を設定し、着実に取り組む姿勢が求められる。畳の上および道場運営において 50%の参加を実現するためには、女性が指導的立場に加わることが不可欠である。働く人と家庭で介護や育児を担う人の双方に配慮した稽古時間の設定、稽古ごとの適切なレベルバランス、十分な資格と配慮を備えた指導者の存在は、男性にとっての魅力を損なうことなく、より多くの女性にとって合気道を魅力的なものにする要因となる。一般的に、女性が指導的役割を担っている道場には、より多くの女性が集まる傾向がある。

道場の中の世界は、道場の外にある社会を映し出している。女性は責任ある立場に進み出る必要があり、男性はその取り組みを支援する必要がある。すでにそのような実践を行っている道場も存在し、私の現在の道場では、男女がほぼ半々の割合で、積極的に共に稽古を行っている。北海道内には、女性の稽古者を支援している合気道道場も存在する。今後は、より多くの女性合気道家が指導的役割を担い、地域社会において合気道を代表していくことが期待される。

書評:合気道のススメ What is Aikido?

岩見沢合気道会 佐藤 圭史

『合気道のススメ: What is Aikido?』は、近年連盟活動に積極的に従事して頂いている「音羽健心」氏によるものである。「音羽氏?」と思われるかもしれないが、こちらは、釧路合気道同好会代表・原佳大氏のペンネームである。著作に関する内容のため、以後、音羽氏として紹介することにしたい。音羽氏は、現在釧路市に居を構え合気道を指導しているが、私が注目したのは海外での勤務・合気道経験である。私自身も海外で仕事・合気道稽古の経験があるため、音羽氏のように、自分自身や日本文化を見つめる・評価する契機になったという経験が重なる。音羽氏は小学校教諭の経験もあり、教育効果の観点から、小中学校での合気道授業導入を以前より訴えてきた人物である。そのような音羽氏の経験と活動に私も以前から注目してきた。

話を本に戻そう。第一に読みやすい本である。文自体がわかりやすく、また行間も適切に開けられているため、著者の伝えたいことを短い時間ながらも十分に理解できる。読者を選ばない優しい本と言える。本は三部構成である。5章からなるが、合気道のメリットを中心とした第1章から第3章、学校教育に関する提言の第4章、著者の実験的考察を記した第5章に分けられる。1~3章は主に合気道に関心を持ち始めた見学者・初心者向け、第4章は教育・行政関係者向け、第5章は独自の要素も含みつつも合気道関係者向けとなっている。この点、「はじめに」で触れているが、各章で期待される読者層の差異についてももう少し強調しおいても良いかもしれない。あるいは、方向性の異なる内容のため、それぞれを独立させて書籍化することも良いのではないかと考える。1~3章は、合気道の良い所を著者の経験から網羅されており、読者は、ここまで訴えられながら、合気道の魅力を感じずにはいられないだろう。著者の気持ちが、しっかりと伝わる内容になって

いる。ただ、もう少し用語の説明に文を割いても良かったのではないだろうか。例えば、「転回足」であるが、初出の段階での説明がなされていない。合気道経験者でも「転換足」「転回足」の説明に窮すると思われ、説明を増やすことで、合気道の足さばきの独自性がより効果的に読者に伝わることだろう。第4章は、私自身が教育に携わるものとして注意して読んだ。著者の主張する、「上からの決定」で武道教育を組み立てるのではなく、子供たちへの教育効果から考えて進めるべきであるとの意見に完全に同意する。第4章は、合気道関係者に限らず、武道教育に当たる教員・外部講師はぜひ読むべきパートである。他にも、第5章のように、著者の合気道に対する興味深い考察を知ることができる。ぜひ、お手に取り、お読みいただいた上で、音羽氏と熱い議論を交わしてもらいたい。

書籍に関するお問合せ: 原佳大 (k46aikido@gmail.com)

編集者より: ニュースレターで案内出来るイベント情報がありましたらご連絡下さい。投稿お待ちしております。

連絡先: (katurazawa@gmail.com 郵送希望の方は Tel: 070-2005-4296) までご連絡下さい。

北海道合気道連盟理事長/岩見沢合気道会 佐藤 圭史

合気道のススメ

What is Aikido?

音羽 健心 著

合気道とは何?

知らない人も経験者も読める

健康法・コーピングとして活かす

かんたん護身術の紹介 教育関係者は必読!

合気道のよさ / 円く動くパワー / 膝で歩く効果
受身の効果 / 呼吸の力を活かす / 武道教育の課題

生活の中で体をほくす 教育でも使える
合気道の準備体操 指導計画例 付き